

長谷川伸と

全作品評解（大正昭和初期編）

鳥居明雄
Torii Akio

その時代

大正昭和初期の全作品三百編余について、解題・梗概・評解を加えて創作の全貌を読み解く。

長谷川伸文芸の再評価と
研究資料の決定版！

ぺりかん社

『喰の母』『一本刀土俵入』など「股旅物」の名作を生み、大正から昭和にかけて大衆文芸に大きな足跡を残した作家・長谷川伸。

本書は長谷川が作家として本格的にデビューした大正一二年から昭和六年の「大正昭和初期」全作品（小説・戯曲）三百編余について評解し、長谷川伸文芸の全貌を読み解く決定版である。

※昭和七年から同一五年までを「昭和戦前期編」として続編を刊行予定

〔本書の特色〕

◎各作品については、解題（書誌的な情報）・梗概（あらすじ）に加え、原文を引用しつつ論じた「評解」により作品世界の理解が深まるものとなっている。

◎作品の配列は年代順となっている。また各年代の末尾に〔同時代相論〕として当時の大衆文芸界、出版界とその関係者、周辺の動静ついて論じており、長谷川伸の文業と、その時代背景を明らかにしている。

◎本書執筆にあたっては新鷹会（長谷川が中心となって設立）の協力を得て、長谷川の自宅と文庫を調査した。

◎可能な限り初出の雑誌・単行本にあたり、『長谷川伸全集』（全十六巻・朝日新聞社）の年譜にも記載されていない作品も掘り起こし、書誌学的にも重要な資料となっている。

長谷川伸（はせがわしん・一八八四—一九六三）

日本の劇作家・小説家。横浜市生まれ。父親が事業に失敗したため小学3年生で中退し、船渠の工事請負人の小僧などをしつつ独学で漢字を覚える。一九一一年に都新聞の記者となり、三十歳頃から小説を書き始める。一九二八年の戯曲『沓掛時二郎』をはじめ、『喰の母』『関の弥太っぺ』『一本刀土俵入』『中山七里』など民衆の義理と人情を描いた股旅ものがヒットし一時代を築いた。史実の丹念な調査にもとづく史伝小説『荒木又右衛門』なども代表作として著名。また、新鷹会など作家の勉強会を立ち上げ、平岩弓枝や池波正太郎など多くの後進を育てた。

本書 凡例より

一、本書が依拠する長谷川伸全作品の出典資料は「年譜」（『長谷川伸全集』第十六巻）及び「長谷川伸全著作目録」

（一）（『大衆文芸』昭和四十四年十月号、昭和四十五年一月号）の二種である。

一、出典資料二種に記されていない作品も多くあり、また「年譜」記載事項がしばしば不正確である事例も散見される。それらについては解題等で適宜注記した。

一、本書を編むにあたり、出典資料等に基づいて初出本文の入手をできるだけこころがけた。また、雑誌発表以後等に刊行された単行本、選集、全集等も参照し、改作改題改訂等を確認検証した。

一、初出誌のみの発表（単行本、選集、全集等で再掲されない）作品で、初出誌本文が入手困難の場合は、解題で（未入手）と注記し、今後の追究に委ねた。

一、本書の構成は、年代順に各作品の解題、梗概、評解を記し、次にそれぞれの年代の末尾に論説を付記した。

一、本書での作品配列は、まず各作品を年代毎に「初出誌判明作品」と「初出誌不明作品」に分類した。前者は出典資料が初出誌名と発表号等を記載している作品、後者は雑誌発表等を再掲する単行本等において初出誌が確認されない（あるいは雑誌発表を経ない、いわゆる書き下ろし）作品である。前者については、出典資料の記載（誌名、発表号等）が誤記または不正確の場合は改め（改める確証が得られない場合はそのまま）、解題でその旨を注記した。なお、前者については小説と戯曲を分離して発表月順に、後者については単行本掲載順に、それぞれ配列した。

一、本書で扱う各作品の題名は、初出名を優先して表記した。改題名がある場合は、初出名の下に付記し（たとえば、初出名「江戸の中着切」改題名「名人巾着切」の場合、「江戸の中着切（名人巾着切）」と表記、解題でその旨を記した。また、解題は初出誌（挿絵画家名も付記）と主な所収書を収録し、作品概説も適宜添えた。加えて、梗概を付し、評解においては作品論評とともに本文引用をなるべくこころがけた。なお、小品等においては、梗概と評解のどちらかまたは両者を省略した。

一、引用本文は初出誌（または初出単行本）を優先しているが、再掲単行本や選集全集中に拠る場合もある。その際、旧かなや句読点については改めていない。

一、引用本文中の（ ）内の語句等、及び（中略）は、引用者によるものである。

一、著作（単行本、選集、全集）名と雑誌名等は『』を、作品名・論文名等は「」を付した。

◆ 目次および作品一覧

凡例
大正十二(一九二二)年 三十八歳
大正十三(一九二四)年 三十九歳
大正十四(一九二五)年 四十歳
大正十五(一九二六)年 四十一歳
昭和(一九二七)年 四十二歳
昭和二(一九二七)年 四十二歳
昭和三(一九二八)年 四十三歳
昭和四(一九二九年) 四十四歳
昭和五(一九三〇)年 四十五歳
昭和六(一九三一年) 四十六歳

〔小説〕
江戸の巾着切(名人巾着切)／天下の為拘
摸(芝節考と三公)／天正殺人鬼(殺人鬼)
／死骸の紛失(死人紛失)／原田甲斐の子
／鷲鷹落雁(をしりり落雁)／大力遊女(大
力女の話)／ばくち馬鹿
〔同時代相論〕
『講談倶楽部』と『サンデー毎日』／菊池寛
と『文藝春秋』／関東大震災と大衆文芸

〔小説〕
次郎吉／あさづま仏／へボン闇殺／泥棒大
明神／敵討凡の三年／めぐみの泉／かはら
け坂／賭け物の命／酒乱崩き(酒乱さばき)
／敵討誓の貼札(誓の貼札)／盗みは廻ぐ
る(盗みは廻る)／死骸に追はれる／敵討
鐘諸共
〔単行本初出作品〕
『どろんの道』所収作品
〔小説〕
幕間の話／国を忘る／落ちぶれ姫／『討た
せてやらぬ敵討』所収作品
〔小説〕
討たせてやらぬ敵討／助太刀変化／流るゝ
牢船(流るる女人牢)／廻りぞ逢はん物語
／魅され浄瑠璃／狐さむらひ／樽詰／欠伸
小屋夜話／おたき血屋敷／鉦叩き尼／窃盗
常習者／淀百人斬
〔同時代相論〕
『キング』創刊／レコード・ラジオの普及と
限界芸術／二十一日会と『大衆文芸』

〔小説〕
赤松峠／稻荷町中蔵／親分病／或る宵の舌
／被害者なき殺人／母を打つ敵討
〔同時代相論〕
『中央公論』大正十五年夏季大附録号「大衆
文芸研究」／妻まさえの死／井上正夫
〔小説〕
御免人車／人かど松／三介の面／女賊の
お君／昔吉重作／高館弁慶／落城請合料五
万石／開ける港／下足番濠鰯／人間以上
／番太夜話／彼我一通／婚礼の賊／皆死の村
／命の墨壺／研辰手向草(研辰(讀岐南羽
床))／水汲みの狂女／七尺六寸不通用／
枕の二郎兵衛
〔戯曲〕
八百蔵吉五郎／樋口角兵衛／仇討人／柄杓
酒／代理殺人
〔単行本初出作品〕
『血白粉』所収作品
〔小説〕
角兵衛物語／血白粉／かた／心中／紅船
黄船／阪本のたつ女／阿波順礼歌／『善悪
半代記』所収作品
〔小説〕
善悪半代記／べら棒医者／返り討地獄／三
味線／『舶来巾着切』所収作品
〔小説〕
日本巾着切／小林平八郎
〔戯曲〕
日本巾着切／小林平八郎
〔小説〕
殊勲といふもの
〔小説〕
不入斗の仇討／雇ひ死人／心中後日
〔同時代相論〕
『現代大衆文学全集』平凡社と白井喬一

〔小説〕
入墨者の死(町の入墨者)／馬の背／越前
にわか関(九郎の関)／掏摸の家／命の
灯／食違ひ道中咄(筋交ひ道中)／一人旅
二人旅／沓掛時次郎／舶来巾着切／百歳以
上／捕り物拳／飛びつちよ
〔同時代相論〕
耽綺社
〔小説〕
馬頭の銭／馬の腹下／流るる女人牢／ふと
ころ旅／鱧の太湖舟／贖身の甲斐／戸並長
八郎／恋慕の砧／色刺し槍／源太時雨／喧
嘩駕籠／こはい飯／五月雨夜話／夜鷹狐鼠
泥(夜鷹こそ泥)／男女結び／生き者死に
者／伊太八編／敵討送り／毛が三本足らぬ
／金子市之丞
〔戯曲〕
駕籠人車／江戸の虎退治／春日山御門／
寛貼泥／新説大晏寺堤／八千八声／雪の渡
り鳥／突支棒の恋／一本刀土俵入／傍慕の
賊／暗闇の丑松／勳太郎月の唄
〔単行本初出作品〕
『長谷川伸集』(現代大衆文学全集第十一
巻) 昭和六年 平凡社 所収作品
〔小説〕
二つの浪人／左近番所／天和快拳録／酒樽
位牌／大小ランブ絵巻／黄昏水鉄砲／『源
太時雨』所収作品
〔戯曲〕
振り袖勝負
〔小説〕
加納の清吉
〔同時代相論〕
柳田國男『明治大正史世相篇』と民間学
参考文献一覧
あとがき

〔小説〕
立花康哉／合点の藤九郎(がてん藤九郎)
／長沼長八郎兄弟(長沼兄弟)／作手伝五
左右衛門／夜もすがら検校／地獄絵巻(第
一篇)(庄屋の娘)／両面盗賊篇／ひよつと
斎／追落し妙吉(追落し)／皿／杉山検校
／解手の話／剣左市の話／泰公逃け／巾
着切／異人屋の女／泥棒役者／幽霊一座／
奇賊五兵衛(五兵衛)／白い幽霊／どろん
の道／碓屋兄弟(碓屋)(伝馬町入牢吏記)
／詐欺／玄治店(与三郎とお富の話)／與
の市人柱
〔戯曲〕
敵討主従
〔単行本初出作品〕
『夜もすがら検校』所収作品
〔小説〕
上野戦争逸事／名工新造／『地獄絵巻』所
収作品
〔小説〕
死に行く／田舎小僧新助／武士道
〔論議〕
柳田國男／新小説と春陽堂

〔小説〕
三挺駕籠／戦国行状／生きてゐる鬼／『弱
い奴強い奴』所収作品
〔小説〕
日染月染／旗本腰抜物語／心中破り／異人
屋往来／なさけの介錯／ころつき往来／八
王子落城の跡／彦六屋敷／強ッ気時代／柩
談処刑／笹喜三郎主従／黒髪白髪／三つ
の骸骨／三日盗賊／妖鬼流血録

〔小説〕
木花千／雑兵の家／月に旅役者／だんまり
嘉助／入墨者の死／葉一貼十八文／おなら

〔小説〕
大正十四(一九二五)年 四十歳
大正十五(一九二六)年 四十一歳
昭和(一九二七)年 四十二歳
昭和二(一九二七)年 四十二歳
昭和三(一九二八)年 四十三歳
昭和四(一九二九年) 四十四歳
昭和五(一九三〇)年 四十五歳
昭和六(一九三一年) 四十六歳

内容見本 (50%に縮小)

大正十二 (一九二三) 年

【小説】
江戸の巾着切 (名人巾着切)
解説

『サンデー毎日』一月一日特別号「小説と講談」(筆名・漫々亭 挿絵・名取春仙)
『よもすがら検校』(大正十三年 春陽堂) 所収 改題「名人巾着切」 内容改訂
『長谷川伸集』(現代大衆文学全集) 第八巻 昭和三年 平凡社) 所収
『春掛時次郎』(昭和七年 春陽堂) 所収
『長谷川伸全集』(第十四巻 昭和四十七年 朝日新聞社) 所収 末尾に「大正十三年五月 短編集」(夜もすがら検校「春陽堂所収」と記す)

「巻頭」と銘打った角書は、巷の出来事を講談調に仕立てた読物、というあてこみである。登場人物として巾着切の芳蔵と隣家の講釈師石川一山との組み合わせで、この後も『サンデー毎日』誌上でシリーズ物の体裁で連作。本作は、後年の小説と戯曲において幾度となく追求している巾着切物の雛形であり、芳蔵の江戸気質を痛快に描く異色の筆勢が芥川龍之介の目に留まったとされる。
なお、本作の骨格を基にして後に名作戯曲「掏摸の家」が成されたものと思われ、その詳細については昭和三年の項「掏摸の家」を参照されたい。

長屋住まいの巾着切芳蔵は掏摸の妙技早業の持ち主。ある時、五十兩の大金を掏摸取るも、その十日後、江戸を発つ親子六人家族の夫の持物だと聞きつけた芳蔵は、女房お杉の持ち金や自宅の家財を質に入れて五十兩を返す元を持ち主へ戻すのであった。

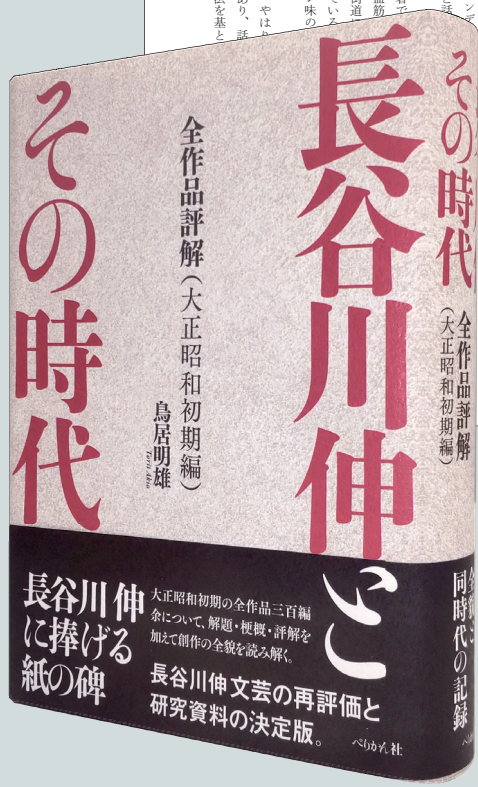
解説

本作のみならず長谷川伸全集に多く普遍的にみられる話語的文体とその口語的筆調は、声を通じた文芸的あり方を追求したものであり、作家長谷川伸の本源でありまた優れた達成であるといえよう。江戸気質の芳蔵無駄ひとつなく描ききる筆力も芥川が注目したとされるが、多くの読者を一読三嘆、作者長谷川伸の異能を感じ取ったことであろう。当時、芥川は菊池寛とともに『サンデー毎日』創刊からの編集人に連なっていた一方で、この二人は翌大正十一年八月から第二次『新小説』(春陽堂) 顧問として同誌改革に着手、長谷川伸を擁護したのであった。その間、芥川自身、次のように記している。

斎藤太郎君が芥川監督者に会ったから、『サンデー毎日』に書いてもらってはどうかと云う。長谷川伸がそうだよと云うた。

日陰者である巾着切を単なる盗人や殊絶な犯罪者として描く姿勢が破天荒であり、かつ痛快である。血筋明らかにし出し、代弁するのである。あるいは、裏街道の光射しに光原そのものであるかのように抜いていきまわっているもの、長谷川伸ならではのケン味といえると思われる。

そうした長谷川伸の資質の拠るところとしては、やはり所々にみられる講談調の文体のしらしむところであり、語らからである。世情風俗を描くに、近代的な散文手法を基



長谷川伸と その時代

鳥居明雄 全作品評解 (大正昭和初期編)

●A5判/上製カバー装/720頁/定価: 本体12000円+税
2025年12月刊行
ISBN978-4-8315-1709-8

【著者紹介】
鳥居明雄 (とりい あきお)

1949年(昭和24)山梨県甲府市に生まれる。東京都立大学大学院博士課程修了。都留文科大学教授を経て、同名誉教授。文学博士。専攻・日本中世文学、日本古典芸能(能・説経)。主著『鎮魂の中世・能・伝承文学の精神史』(1990)、『漂泊の中世・説経・語り物の精神史』(1994)、『贖罪の中世―伝承藝文の精神史』(1999)、『をぐり―再生と救済の物語』(2011)、『出会いの精神史―語りの原像』(2013)、『長谷川伸の戯曲世界 沓掛時次郎・險の母・暗闇の丑松』(2016)、『長谷川伸の戯曲世界 2 中山七里・一本刀土俵入』(2020)、『能 粟谷菊生舞台写真集』(編著 2006)、『景清 粟谷菊生の能舞台』(編著 2006)。いずれも、ぺりかん社刊。

【関連書籍のご案内】

長谷川伸の戯曲世界

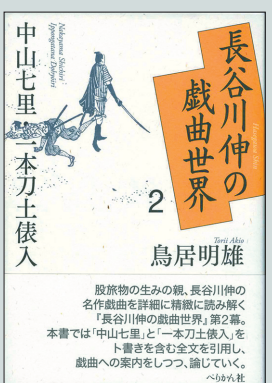
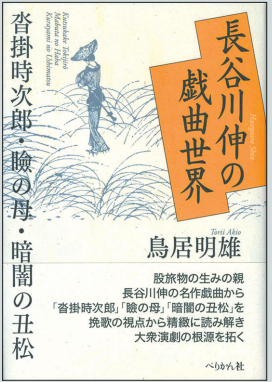
沓掛時次郎・險の母・暗闇の丑松
鳥居明雄著 長谷川伸の名作戯曲から「沓掛時次郎」「險の母」「暗闇の丑松」を挽歌の視点から精緻に読み解き大衆演劇の根源を拓く。

●四六判上製/定価: 本体3500円+税

長谷川伸の戯曲世界 2

中山七里・一本刀土俵入
鳥居明雄著 長谷川伸の名作戯曲から「中山七里」「一本刀土俵入」を取り上げ、ト書きを含む全文を引用し、戯曲への案内をしつつ詳解する。

●四六判上製/定価: 本体3500円+税



〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
TEL. 03-3814-8515 FAX. 03-3814-3264

ぺりかん社

【取扱店】